

事業		30年度の取組み状況	30年度事業評価・課題	31年度の取組み計画
高齢者 相談センターの 重点課題 重点目標 運営方針		★サロン、サークルへは定期的に参加しており、老人会、自治会、社会福祉協議会支部の方々向けに出前講座を開催。地域包括ケアシステム、介護保険、介護予防、認知症についての講演を行いました。 ★9月、2月に地域のサロンを運営している方々に集まっていたき、第2層の協議体による会議を開催。運営に関する悩み事、良い所や特徴などを皆様で共有した。	★定期的なサロン、サークル活動への参加、出前講座等の開催により、高齢者相談センターの周知は行えた。 ・地域包括ケアシステムの構築のために第2層の協議体の会議を開催し、サロン同士のネットワークの強化をすることができた。 ★課題として若い世代や介護に携わっていない方々への地域包括ケアの理解が行き届いていない。地域での重要性を伝えていく必要がある。	★地域包括ケアの推進の為、地域の高齢者が集まる場所に出向き、高齢者相談センターの周知をし、出前講座を開催する。 ○第2層の協議体の会議を開催し、地域に不足している資源の発掘をし、開発に向けての検討を行っていく。 ★若い世代の方々へ地域での見守りの重要性を訴えていく。小学生、中学性の親の世代に向けて、認知症サポーター養成講座や介護保険、介護予防等についての講演を行っていただけるように、まちづくり会議等で呼びかける。
包括的 支援事業	総合相談支援業務	★独居高齢者、認知症高齢者、家族やキーパーソンのいない高齢者が地域に多数いらっしゃる。自治会、民生委員、高齢者相談員、医療機関、サービス事業所等と多職種連携で支援にあたることができた。 ★制度につながるまでの間は高齢者相談センターが密に関わることも多く、市のケースワーカーに報告、相談をしながら支援を行った。	★家族やキーパーソンのいない高齢者に対し、必要な相談機関と連携を図り、制度の申請や開始されるまでの支援を行い、日常生活を支障なく送れるようにした。 ★担当地区の高齢化率が高く、独居や認知症、複雑な家族環境の高齢者が多い。安全に生活できる環境を整えるまで高齢者相談センターで関わり、判断できないケースについては、市のケースワーカーに今後も相談の必要がある。	★現在できている地域のネットワークをさらに強化して、高齢者の見守り体制を充実させていく必要がある。地域の高齢者が介護の状態になる前に早期に発見され、介護予防をしていけるように更なる高齢者相談センターの周知、出前講座や関係者に集まっていたき会議をしていく。 ★高齢者相談センターが地域の高齢者の相談窓口であり、気軽に利用をしていただけるように、高齢者とは違う福祉関係事業所へも理解を深めていただく為、第2層の協議体等を利用して連携をしていく。
	権利擁護業務	★成年後見制度につなぎ、支援をしていかなければならないケースが非常に多い。申立てをする親族もおらず、市長申立てにて制度につなぐことが増えている。 ★家族と同居しているが、仕事をしておらず、高齢者の年金で生活している世帯が多い。生活苦で介護サービスが十分に利用できないケースについては、家族の生活支援の相談も同時に受けている。	★成年後見制度の利用が必要な方については、スムーズに制度の申請をすすめられたが、人数も多く、制度が利用できるまでに時間がかかる。 ★家族と同居しており、本人の年金はあるが、生活が困窮しており、必要なサービスを利用して安心して生活を送れていない場合もある。それぞれが利用できる制度を有効に活用し、生活を支援する必要がある。	★成年後見制度の利用ができるようになるまでは高齢者相談センターと市のケースワーカーが協力し支援を行っていく。 ★会議や出前講座を行っていく中で、成年後見制度、高齢者虐待、消費者被害については高齢者の息子、娘の世代の方たちに集まっていたき理解を深めていく。 ★高齢者と家族が同居し、生活が困窮し介護サービスも十分に利用できていない世帯に関しては、家族を必要な相談機関につなぎ、自立していけるように促していく。
	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	★個別の地域ケア会議を3回、圏域のケア会議を1回開催。医療、介護、福祉の関係機関の方に集まっていたき。また、高齢者相談センターの主任ケアマネが主催し、年間3回ケアマネジャー向けの合同の研修会を開催した。 ★個別のケアマネジャー支援として、支援が困難なケースに関しては同行訪問、担当者会議に出席している。	★地域の高齢者の生活環境や家族関係が悪化している場合があり、ケアマネジャー一人では抱えきれないケースが増えている。高齢者相談センターが中心となり、他機関と連携し後方支援をしている。 ★個別の地域ケア会議を開催し、本人の生活課題から地域の課題の抽出を行いました。本人の課題の解決とともに、地域の課題を解決していく必要がある。	★個別のケア会議は随時行う。また圏域のケア会議を継続していくことで、ケアマネジャーの後方支援、地域のネットワークの強化を図っていく。 ★医療と介護の連携について、大きな病院についてはソーシャルワーカーを通じて連携ができているが、開業医とは一部の方との連携しかできていない為、ケア会議を通じて関係づくりをしていけるようにしていく。 ★ケアマネジャーにつないだケースの動向について、特に問題のあるケースについては、状況確認を行っていく。
	介護予防ケアマネジメント業務	★アセスメントの結果、介護予防日常生活支援・総合事業の訪問型、通所型サービスの対象となりそうな利用者に対し、ケアマネジメントを行った。 ★短期集中通所型サービスを利用して介護予防をしていくように勧奨を行っています。事業が終わった際には地域のサロンやサークル活動に移行していけるように支援を行っている。	★短期集中通所型サービスが終了した後の介護予防の集いの場について、その人にあったところを紹介することができた。ただし集いの場が決して多くはない、という現状もある。 ★要支援、事業対象者の認定を受ける利用者が増加しているが、高齢者相談センターの職員がケアプランの上限数に達している。委託ができる居宅介護支援事業所もない状態である。	★介護予防の重要性を周知し訪問型、通所型サービスの他、地域のサロン、てんとうむし体操、足腰元気塾等のインフォーマルサービスを積極的に利用していけるように支援を行っていく。 ★本人の自立支援に向けた支援になっているかどうか、定期的にモニタリングを行い、現状把握を行っていく。 ★居宅介護支援事業所との連携を強化し、協力して地域の介護予防事業を進めていけるようにしていく。
重点運営事項		センターが重点的に取り組む事項	具体的な取り組み	
1	地域ケア会議の充実	●個別の地域ケア会議は支援の対象者が地域で快適に生活していけるように、個別課題の抽出から地域課題を抽出する。また解決に向けての役割分担をする。地域連携を強化し圏域の地域ケア会議につなげていく。 ●自立支援、介護予防に向けての地域ケア会議を開催し、本人が自立した生活が送れるようにケアマネジメントができているか、検証をしていく。	●個別の地域ケア会議に関しては、必要時に随時行っていく。秋津高齢者相談センターの担当地域は高齢化率が高く、独居、認知症高齢者が多い。またエレベーターのない団地が多い等課題が山積している地域です。介護状態が重くなってから発見されることもあり、生活環境、経済状況、家族関係が悪く、在宅生活が難しい場合もありますが、本人が望む生活を送れるように、地域の医療、介護、福祉の関係者がネットワークを組み、役割分担をして支援をしていく体制を構築していきます。 ●自立支援、介護予防に向けた地域ケア会議に関しては、本人が自立した生活が送れるようになっているかを多職種でケアマネジメントして、介護予防の観点からサービスが効果的に利用されているかどうかを検証していきます。	
2	生活支援体制整備事業に関する取組みの充実	●第2層の協議体の会議を開催し、地域の課題を共有する。地域の高齢者が暮らしやすい生活環境の整備の為、必要な支援の方法について協議をしていく。 ●地域の資源となる担い手を探していくことが必要である。現在活動している団体をお手本として、新たに住民主体の団体をつくっていけるかどうか、検証をしていく。	●第2層の協議体の会議で現在地域でサロンやカフェを運営、開催している方々に集まっていたき、良い所、悩んでいる所等を共有し、地域の見守り支援において、サロンやカフェが貴重な社会資源であることを皆様で確認しあうことができた。今後も協力体制を築いていけるように定期的に情報交換をしていく。 ●地域での見守り支援について、というテーマで1年目、2年目の第2層協議体の会議を行ってきており、参加をしていただくメンバーについては検討をしていくが今後も同様のテーマで会議を開催していきます。	
3	認知症総合支援事業に関する取組みの充実	●キャラバンメイトの会が立ち上がり、今年度も昨年同様に会議を数回開催して、31年度の認知症サポーター養成王座、認知症についての啓発活動について話し合いを行っていく。 ●認知症地域支援推進員を中心として、キャラバンメイトの方にご協力をいただき、特に若い世代の方に認知症の講演、認知症サポーター養成講座を開催していく。	●キャラバンメイトの会が立ち上がり、今後の認知症サポーター養成講座や認知症についての啓発活動は若い世代の方向けに行い周知をしていきたい、と話し合いをしています。小学生、中学生の他、その親の世代の方たちにも理解をしていただけるように、認知症サポーター養成講座に参加していただくことも検討しています。 ●認知症サポーターになっていただいた方に地域で活躍していただく為に、養成講座をうけていただいた後のフォローとして、どのようなことで協力をしていただけるか、例えば地域のサロンやカフェ等でボランティアをしていただけるかどうかの意思確認をしていきます。	